



# 託北だより「あすなろ」No.32

「和」～敬・愛・信～

令和6年10月4日（金）  
熊本市立託麻北小学校  
文責：小倉 秀俊



HPコード

## ☀️ 読書のすすめ

全国学校図書館協議会が毎年行っている「学校読書調査」によると、小学生(4年生～6年生)の1か月に読んだ本の冊数(2023年6月調査)の平均が、10年前に比べると2冊あまり増えていて増加傾向にあるそうです。これは、「読み聞かせ」など、読書に興味を持てる取組が増えていることが効果を生んでいるのではと考えられています。

一方、文化庁の調査(2024年1月～3月)によると、大人の読書離れは顕著で、1か月に1冊も「読まない」と回答した人の割合は62.6%にのぼり、5年前から15ポイント余り増加したそうです。これは、スマートフォンの利用増加や書店の減少が影響しているのではと推測されています。

託麻北小では、夏休み明けの調査(学年から1クラス抽出)では、9割以上の児童が、「読書が好き、どちらかと言えば好き」と答えており、7割近くの児童(4年生以上)が、月に5冊以上、本を読んでいると回答しています。調査の内容が異なるので、単純に比較はできませんが、本に対する興味関心はあると思います。

託麻北小では、毎週「のいちご」のみなさんに、読み聞かせのボランティアに来ていただいています。時々様子を見ると、どの学年も食い入るように聞いています。「読書」はあらゆる学習の土台になります。読書によって集中力も高まります。今後も、大人になっても読書に興味を持ち続けられるように、継続して読書指導に取り組んでいきたいと思っています。

先日、「のいちご」代表の中山様から、約300冊の絵本を寄贈していただきました。図書室の整理ができれば、子どもたちに紹介したいと思っています。



## コーヒープレイク



「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」聞いただけで、五感が揺すぶられる有名な俳句です。当然この柿は甘いでしょうが、子どものころに騙されてかじった渋柿の味は忘れられません。歯茎の神経にしみこむようなしびれがしばらく残ります。ただ不思議なことに、皮をむいて、寒風にさらし、干し柿にすると、独特の甘い柿に変身します。干し柿は、平安時代には作られていて、甘いものが貴重だった当時は高級な貴族のお菓子だったようです。また、和菓子職人にとって、昔から、干し柿は、甘さの基準だったということで、この甘さをめざして工夫を重ねてきたそうです。おいしいものがあふれている今日、自然が作る本物の甘さを大切にしたいものです。



横山忠克先生作